

# 面向初中的课堂教学活动设计：你吃过快餐吗？

## 语言学习目标：

- 了解各种快餐食品的名称。
- 能够意识到清浊音以及特殊音节（拨音、拗音、长音）的发音

**句型及表达形式：**～たことがある、～することができる、～たいです

**词汇：**牛丼、天丼、おにぎり、カレーライス、うどん、そば、ラーメンなど

## 语言以外的学习目标：

- 通过学习日本快餐食品的相关信息，了解扎根于日本文化中的外国文化的存在。

- 探讨中国的快餐食品

**活动时间：**50 分钟

**教具：**《今日日本》、附录、快餐食品图片（复印杂志登载的图片或者通过网络下载，图片的尺寸尽可能放大一些）。如果弄不到图片，请与 TJF ひだまり编辑部取得联系，编辑部可为您免费提供所需要的图片。

与本期题材相关的初高中《日语》（人民教育出版社）的内容有：8 年级上册第 5 课（うちに遊びに来ませんか）、8 年级上册第 1 课（どんなスポーツが好きですか）、9 年级下册第 4 课（盲導犬を育てた人）。

## □ 课前准备

按学生人数印刷填写纸。

## □ 授课过程

### 1. 导入

进行以下提问，以此导入与快餐食品相关的话题。提问时可以使用汉语。

#### 示范

- みなさん、よく外食しますか。最近は、どんなものを何を食べましたか。
- ファストフードを食べたことがある人はいますか。何を食べましたか。
- あなたはどんなファストフードが好きですか。

### 2. 发音的听写练习

(1) 让学生列举自己了解的日本快餐食品。发言时可以使用汉语。

#### 示范

- 今日はファストフードについて勉強します。日本にもたくさんのファストフードがあります。どんなものがあるか知っていますか。

#### 提示

告诉学生：所谓快餐，是指在订餐之后短时间内即可端上餐桌的食品。本期介绍的一些日餐都是近些年加入快餐食品行列的。

(2) 进行以下说明，让学生准备进行听写练习。

#### 示范

- では、これから、日本のファストフード店で食べられる料理の名前を日本語で言います。ノートに聞いた言葉をひらがなで書いてください。答えは 1 番からたてにひとつずつ書いてください。

#### 答案

1. ぎゅうどん① 2. てんぷら① 3. てんどん① 4. おにぎり② 5. カレーライス④ 6. うどん① 7. そば① 8. ラーメン① 9. やきそば①

#### 提示

● 教师在说出第 5 个词汇“カレーライス”和第 8 个词汇“ラーメン”之前，应提示学生用片假名书写。答案应竖着写，以便之后横向添加其它一些内容。

● 听写没学过的词汇确实有一定难度，不过，此时写出的词汇即使不准确也无关大局。在接下来的练习中，如果能够明白“原来这个词汇表示这种意思”，并对该词汇产生兴趣即可。

● 如果教师对发音没有信心，可以免去这项活动，像以往那样，利用图片学习词汇。例如，可以将 9 个词汇同 9 张照片一起摆出来，做组合游戏。

(3) 对照答案。

#### 提示

如果用 50 分钟开展所有的活动，那么本项活动则不能花费太多的时间。可以让做完练习的学生到前面写在黑板上，也可以事先确定到黑板前面听写的人选，在笔记本上及黑板上的听写同时进行，这样能够节省时间。

### 3. 加深对日本快餐食品的理解

(1) 让学生一边看图片，一边确认第 2 项中 1 至 9 的词汇，说出汉语的名称及其所特指的快餐。如果有学生了解相关的情况，应让其进行说明，如果学生的阐述不够全面，教师可以参照《今日日本》加以补充。

#### 答案

1. 牛丼→牛肉盖饭 2. 天婦羅→天麸罗 3. 天丼→天麸罗盖饭 4. おにぎり→饭团 5. カレーライス→咖喱饭 6. うどん→切面 7. そば→荞麦面 8. ラーメン→拉面 9. 焼きそば→炒面

#### 提示

下课后，教师可以将《今日日本》张贴在教室里供学生细读，所以在这项活动里，教师不必对《今日日本》的内容进行详细介绍。在这里应该让学生意识到，牛肉盖饭、天麸罗、咖喱饭、切面、拉面等都是从外国传来的饮食文化，如今已经深深地扎根于日本文化。

(2) 用日语提出几个简单的问题，让学生尽可能用日语回答。此时向学生提示“～たことがある”“～られる”“～たいです”等句型，指示学生在回答问题时适当使用。

#### 示范

- この中で、どれか食べたことがありますか。
- 私たちの町では、どれが食べられますか。どれが食べられませんか。
- もし、日本へ行ったら、どのファストフードが食べたいですか。

### 4. 就快餐食品展开讨论

(1) 将班级分为几个小组，每组成员 3 至 4 人。给每个小组分发一张填写纸，以便记录以下几个问题的讨论内容。每个小组确定一名记录员、一名发言人，记录员将讨论的内容记录在填写纸上。此时可以使用汉语作记录。

#### 示范

- ファストフードとはどういう食品のことをいいますか。グループで定義して下さい。
- 中国にはどんなファストフードがありますか。それはほかの国からきましたか。中国でできましたか。
- ファストフード店を開くなら、どんな店にしますか。グループでひと

つ考えてください。

- 何料理の店ですか。
- どんなメニューを用意しますか。オリジナルメニューも考えてみましょう。
- たくさん売れるために、どんな工夫をしますか。
- 店の名前は何にしますか。

#### 提示

如果时间允许，也可以画一些快餐食品的简图。

(2) 以小组为单位发表讨论结果。

#### 作业

教师在下课以后，将《今日日本》张贴在教室里，指示学生完成课后作业（附录中的填写纸2）。

#### 示范

- 「今日日本」を読んで、ワークシートに記入してください。できたら、次の授業で提出してください。

## 面向高中的课堂教学活动设计：让我们共同探讨快餐文化

### 语言学习目标：

- 能够运用日语简单介绍快餐食品。

**句型及表达形式：**连体修饰语、～たほうがいいと思う、（なぜなら）～からです

**词汇：**牛丼、天ぷら、天どん、おにぎり、カレーライス、うどん、そば、ラーメン、焼きそば、料理に関する語彙（参照附录）

### 语言以外的学习目标：

- 了解日中两国的快餐食品，发现饮食文化的多样性。

- 通过探讨一些特有的快餐食品，培养学生的想像力。
- 阅读有关饮食教育以及单独进餐的文章，反思自己以往的饮食生活。
- 通过学习日本快餐食品的相关信息，了解扎根于日本文化中的外国文化的存在。

**活动时间：**50 分钟

**教具：**《今日日本》、填写纸（附录）、读解文（附录）

与本期题材相关的初高中《日语》（人民教育出版社）的内容有：7 年级下册第 2 课会话（携帯電話）。

### 课前准备

- 课前 1 周将《今日日本》的介绍文章张贴在教室里。
- 按学生人数复印填写纸，每人一张，分发时指示学生在开展活动之前用日语填入相应的内容。

### 授课过程

#### 1. 导入

进行以下说明之后，对照填写纸上的答案

#### 示范

- 今日はファストフードについて勉強します。「今日日本」を読みましたか。ファストフードについてどんなことが分かりましたか。

#### 答案

1. 注文してから短時間で出てくる 2. 牛丼、天丼、おにぎり、カレーライス、ラーメン、そば、うどん、焼きそばなど 3. てんや→天丼 松屋→牛丼 CoCo 壱番館→カレーライス おだむすび→おにぎり 4. A: カレーライス B: そば C: おにぎり D: ラーメン E: 焼きそば F: 天ぷら G: うどん H: 牛丼

#### 2. 探讨中国的快餐食品

(1) 让学生列举一些中国的快餐食品，并写在黑板上。

#### 示范

- 中国にはどんなファストフードがありますか。
- (2) 确认(1)中所列举的快餐食品的由来。

#### 示范

- ○○は中国でできたものですか。ほかの国からきたものですか。

#### 3. 介绍中国的快餐食品

- (1) 将全体学生分成几个小组，每组成员 3 至 4 人。设定“对日本朋友介绍中国的快餐食品”这一场景，斟酌如何对 2 中的快餐食品加以介绍。如果所列举的快餐食品数目过多，可以由每个小组各自分担一部分。
- (2) 参考以前学过的填写纸 4 中的日语表达和句型，讨论如何准确介绍每种快餐食品，并将讨论内容归纳在笔记本上。
- (3) 以小组为单位发表讨论内容。如果学生的日语表达有不妥之处，教师应给予适当的纠正。

#### 4. 探讨自己独创的快餐食品

以小组为单位，进一步探讨由中国及日本快餐所能够联想到的一些独创的快餐食品。

#### 示范

- 「今日日本」で勉強したファストフードを、中国風（民族風）にアレンジしましょう。
- どんなメニューにしますか。どんなサービスをしますか。

#### 提示

如果学生一时想不出来，教师可以提示几个例子。如：用咖喱作馄饨汤汁的“咖喱馄饨”等等。

#### 扩展练习：探讨饮食生活

- (1) 让学生阅读附录中的读解文，并在填写纸上的栏目内填入相应的内容。
- (2) 对照答案。

#### 答案

I.1. 食育とは、食について（正しい知識）を習得し、（正しい）食習慣を実践するための（教育のこと）です。2. ファストフード、スローフードとは、人と（コミュニケーション）をとりながら楽しむ、（ゆったりとした）食事を

提唱するものです。 II.1. ○ 2. × 3. ○ 4. ○ 5. ○ III.1. 固食  
2. 孤食 3. 個食

(3) 让学生回答有关饮食生活的问卷调查，以此反思自己的饮食生活。

(4) 让学生畅谈通过读解文的内容以及对自己饮食生活的反思所得出的感受。

#### 示范

- 自分の食生活についてどう思いますか。気をつけたほうがいいと思うことはありますか。

#### 提示

此时, 可以使用 “～たほうがいいと思います。なぜなら、～からです” 等日语表达形式。

#### 提示

教师要收回、统计问卷调查的答卷, 并在下一次课堂上公布统计结果, 让学生讨论从调查结果中发现的问题。

执笔: 津花知子 (早稻田大学日本語研究教育中心以及群馬大学留学生中心讲师。曾在 1998 年至 2000 年期间, 作为日本青年海外协力队员到沈阳外国语学校任日语教师)

## 食生活アンケート

あなた自身のことについて教えてください。

#### 【昨日の食事について】

	朝	昼	夜
何を食べましたか。			
どのくらい時間をかけましたか。			
誰と食べましたか。			
どこで食べましたか。			

#### 教法指点

本期讨论的主题是“快餐”。

在中国的初中和高中教日语的诸位老师, 您喜欢快餐吗? 您平时经常吃快餐吗? 您对自己的饮食生活认真地反思过吗? 让学生们反思这些问题也是本期主题的意图。

最近在日本, 十几岁、二十几岁的年轻人当中, 患“味觉障碍”的人不断增多。所谓“味觉障碍”, 一个明显的症状就是无论吃什么“食不知味”, 或者明明在吃甜食却感觉苦涩。要预防此类现象的发生, 必须重视日常的饮食生活(参阅健康网: <http://www.health-net.or.jp/index.html>)。思考健康、营养以及饮食生活等问题与本期讨论的主题“快餐”有着密切的联系。

也许有的老师会这样想: 我是个日语教师, 这一主题与日语课没什么关系吧。

然而, 在我看来, 正是通过有意识地引进一系列不单单是学习日语的教学活动——就本期讨论的主题而言, 以快餐为话题, 让学生讨论日本和中国的快餐食品, 由此反思自己以往的饮食生活——并在这些活动的过程中对学生进行日语的听说读写训练, 唯此才是以素质教育为目标的课堂教学活动。

本期以快餐为主题、带有趣味性的课堂活动可谓丰富多彩, 就我们来探讨一下活动中的关键环节。

首先来探讨一下面向初中的课堂教学活动“你吃过快餐吗? ”。顾名思义, 快餐即“速成(ファスト)食品(フード)”, 在开展活动之前, 教师自身应理清“快餐食品”所涵盖的内容。

在听写日本快餐店所提供的快餐食品名称时, 为了能够以准确的发音和语调将这些食品的名称朗读出来, 教师在活动之前应进行充分练习。

本次活动的主要目的不是准确地写出食品的名称, 或者记住食品的名称, 而是首先了解日本的快餐中有哪些食品, 以便与后面的活动有机地衔接起来。因此, 着眼点应放在激发学生的学习兴趣上。

如果当地也有这类在日本比较常见的快餐店, 会增进学生对日本以及日语学习的亲近感。如果当地没有此类的快餐店, 也可以将中国国内部分城市里流行的日本式快餐店的情况, 在课堂上作一简单介绍。

接下来是面向高中的课堂教学活动“让我们共同探讨快餐食品”。在进行探讨中国的快餐食品, 并加以说明的活动时, 让学生想一想自己生活的社区有哪些特色菜和餐馆, 其中哪些食品是快餐, 哪些不是, 哪些是中国固有的, 哪些是由外国引进的。使学生在对快餐食品获得感性认识的同时, 逐步地展开活动。

接下来的活动是让学生自己来设计富有创意的快餐食品。为了充分发挥学生的想象力, 教师最好能自己设计一份别具特色的快餐。例如, 作为天麸罗的替代食品, 将羊肉串盖在米饭上的“羊肉串盖饭”、在肉和蔬菜的馅子里加奶酪的“奶酪包子”等等。教师颇具匠心的才艺展示能够使学生们更好地理解接下来将要进行的小组活动的意图, 即希望学生们想出更新颖的点子来。这会进一步地督促学生展示自身的创造性。

据说人的味觉是在年轻时通过品尝各种不同食物而形成的。同样, 接触不同的事物有助于培养学生的感受能力, 使其成为一个内涵丰富的人。因此我想, 在开展日语教学活动时, 应该同时重视对语言的习得和对人格的培养。

有馬淳一

國際交流基金日本語國際センター専任講師